メモ.7

てんかん治療薬（抗てんかん薬）の副作用

抗てんかん薬には特有の副作用があります。さらに他の病気の治療薬（たとえば風邪薬とか高血圧の薬とか）と比べると、その出現頻度も高めかもしれません。最も多い副作用は眠気やふらつきなどで、多かれ少なかれほぼすべての抗てんかん薬で見られます。脳に作用する薬剤であるがゆえに、精神的な症状、例えば気分の変化（気分が落ち込みがち、活気が乏しい）、性格の変化（怒りっぽくなるとか、イライラしやすい）などが見られることもあります。抗てんかん薬に限った副作用ではありませんが、アレルギー症状や内臓に対する負担（肝機能障害や腎機能障害）なども見られる場合がります。妊娠や授乳などへの影響から女性の場合は服用に注意が必要な薬剤も中にはあります。また、抗てんかん薬同士、あるいは抗てんかん薬と他の治療薬との飲み合わせに注意が必要な場合もあり、これは相互作用と呼ばれています。

このような副作用や相互作用は必ず見られるわけではなく、多くの場合は服薬量や種類の調整によって支障がない程度に慣らしていくことも可能です。また、この薬にはこういう副作用が出やすい、こういうてんかんのある人にはこういう副作用が出やすいなどの傾向がわかっているので、処方する医師はそれをきちんと判断し、てんかんのある人に説明をします。副作用は無視できませんが、てんかんの治療を正しく行わないと発作が出現する心配もありますので、こうした副作用や相互作用に対し過度に不安になる必要はありません。処方した医師の指示に従ってください。